桜川文芸

俳句

【大和俳句愛好会】

つばめ来るこの村の路地知りつくす　鈴木　つぎ

遠筑波やさしき風によもぎ摘む　代田　とし

野の息吹き満つ野遊び母子かな　皆川　和子

校舎あとたちまち桜散り終わる　斉藤与誌江

漬物は吾れの役目や花菜漬け　田中はつい

柿若葉雨に新聞読みとれず　安達　幸子

【桜川岩瀬俳句会】

ささやかな一人暮らしの柏餅　菊地　すい

若き日の旅偲びをり著我の花　大関しづ子

そばすする店よりながむ芝桜　上野　吉江

金魚草小雨うれしと咲く朝　永瀬　ちい

次々とセキに止まりし落椿　細谷　充子

うれしさのみなぎる空や鯉のぼり　長井　冬扇

短歌

【やまと短歌会】

夕ごとに訪ふ銀ヤンマ網戸越しに七色目玉光らせて去る　鈴木　とみ

ハドソンリバー自由の女神の眼差しを娘と見上げたるあの日は遠く　栗崎よしの

澄み透る流れは小さく渦巻きつつ吾が踝をくすぐるくすぐる　野村　幸男

車井戸の縄をぐいぐい手繰り上げ桶から冷たき水を啜りし　中島　龍子

鬼怒川の疾き流れに竿をふり鮎釣る夫のたくましかりし日　北条　正子

つゆ晴れに大きうねりの青田波畔刈る農夫の一ぷくのけむり　高橋ミツエ

【岩瀬短歌会】

近づきてまた遠ざかる如月の春は名のみの身に沁む寒さ　小林　むら

逆上がりやっと出来たと大きまめ見せつつ女孫「痛くはないよ」　渡辺しな子

山陰の公民館の青畳村人集ふ寒さ忘れて　泉　三郎

寝たきりにさせてはならじ母に手をさし伸べ歩ます日溜りの縁　大久保富美江

十年を育てしアロエよこの冬を茎伸びやかに花咲かせたり　五月女静江

野仏に傘さすごとく道の辺の古木の梅は揺れつつ匂ふ　鈴木美津子

玉手箱か菜花ストック金魚草房総の友より届く早春　岡野　禮子

いづくにて夫手折りしかろう梅の黄の零れ花腕に匂ふ　小林美瑳子

窓に見る彼方へ青く深き空我が身は日がな白きベットに　安達すみ子

早朝の緊急ヘリの到着で医師看護師等きびきび動く　長谷川玲子

満天星（どうだん）の花のぷつぷつ沢山（さわ）に咲き白き小鈴の様（さま）にうつむく　石川　喜代

有料広告掲載募集中！
お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268
広報さくらがわ

有料広告掲載募集中！
お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268
広報さくらがわ